

このうち、釣鐘は自らが信仰する三井寺に寄進。その後は俵や巻絹は尽きることはありませんでしたが、ある人が俵の底をたいたところ、小さな蛇が現れ、それまで尽きることのなかった俵などの穀物が、再び出ることはなくなるといわれています。秀郷が龍宮で饗応を受ける光景は『東海道名所図会』の挿絵にも「秀郷龍宮城に到る」と紹

介されています。歌川国芳の描く「東海道五十三対 草津」では、白波が寄せる湖面から現れる長髪の龍女。陸から俵藤太が弓を手に、龍女を眺める光景が、そして背後には、伝説の舞台となった瀬田橋のシルエツトが描かれ、上部の海老で囲まれた絵詞には、伝説の概要が記されています。

『俵藤太物語』にある伝説です。俵藤太は平安時代の武将藤原秀郷で、延喜8(908)年秀郷が瀬田橋を渡ろうとしたとき、龍が湖面から女性の姿になって現れ、野洲郡にある三上山を七巻半もする大きな百足退治を依頼。秀郷はこれを首尾よく射止め、そのお礼として湖底にある龍宮に案内され饗宴を受けました。そして、俵藤太の由来ともなった財宝の尽きることのない俵や、太刀、鎧、釣鐘などを授かりました。

さて、五十三対の草津では俵藤太と百足退治伝説を取り上げています。『太平記』にも記され、室町時代の「御伽草子」の一つ『俵藤太物語』にある伝説です。俵藤太は平安時代の武将藤原秀郷で、延喜8(908)年秀郷が瀬田橋を渡ろうとしたとき、龍が湖面から女性の姿になって現れ、野洲郡にある三上山を七巻半もする大きな百足退治を依頼。秀郷はこれを首尾よく射止め、そのお礼として湖底にある龍宮に案内され饗宴を受けました。そして、俵藤太の由来ともなった財宝の尽きることのない俵や、太刀、鎧、釣鐘などを授かりました。

『東海道五十三対』は、街道筋の風景を描いたシリーズとは異なり、伝説や史話を取り上げた企画で相当インパクトがあったものと推察でき、歌川広重・二代歌川豊国の「双筆五十三次」など、物語性をもつ浮世絵なども人気を博したと考えられます。

近江の街道筋には、土山の坂上田村麻呂伝説や三井寺弁慶の引きずり鐘伝説など、他にも多くの伝説や史話が残り、浮世絵や名所図会に取り上げられています。これらは、草津宿街道交流館で8月27日(日)まで開催中の「街道とものがたり ふくらむ旅へのあこがれ」で紹介していますので、ぜひご覧ください。



▲歌川国芳画「東海道五十三対 草津」  
(草津市蔵・中神コレクション)

草津市役所: T.575-8588  
滋賀県草津市草津三丁目13番30号  
編集発行: 草津市広報課

☎(077)563-1234 FAX(077)561-2483  
(8:30~17:15)外と休日(守備室)☎(077)561-2499  
草津市ホームページ <https://www.city.kusatsu.shiga.jp/>

草津宿街道交流館(草津三) ☎567-0030、FAX567-0031

Kusatsu Information

いつでもどこでも「広報くさつ」



市ホームページ



ラジオえふえむ草津  
(FM78.5MHz)  
「声の広報」



スマートフォン用アプリ

- マチイロ
- SideBooks(ちいき本棚)

市公式ソーシャルメディア



市の花  
アオバナ



市の木  
キンモクセイ

草津市メール  
配信サービス

市の情報をメールで  
配信するサービス



くさつチャンネル

さまざまな動画や、  
びわ湖放送(BBC)  
で放送されている  
草津スケッチもこ  
ちらから配信!



6月30日現在(対前月比)

- 人口139,323人(+152)
- 世帯数63,601世帯(+92)
- 男69,890人(+39)
- 女69,433人(+113)

国スポ開催まで  
あと

789日

わたSHIGA輝く  
国スポ・障スポ2025

障スポ開催まで  
あと

816日



開催まで  
カウント  
ダウン!